

古代思想を身近なものとして感じる — 思想を通して自らの生き方を見つめ直す —

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 文章（漢文）
- 3 教材名 「漁父辞」 屈原
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>単元の目標</p> <p>ア 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえることができる。 (読むこと)</p> <p>イ 文章に描かれた人物、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 (読むこと)</p> <p>ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。(興味・関心・態度)</p>		
	<p>① 単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる生徒たちの中には古典、特に漢文分野に対する苦手意識をもつ者が多い。そして漢文に関するアンケートを取ると、漢字の読みを覚え、訓読することで精一杯な者が多数を占める。そのため作品の内容を読み味わえずに、まるで字面だけの記号のように捉えてしまう傾向がある。このような生徒たちに中国古代思想を自らの生き方と比較して捉えることで、漢文を身近なものとして理解させたいと考えた。そのため儒家・道家思想が表現されている「漁父辞」を取り上げた。この単元で漢文は身近なものであることに気付かせ、主体的に読む姿勢を育成したい。 <p>② 中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁父が「滄浪歌」にこめた思いを考え、漁父と屈原の生き方の違いを理解する。 ・屈原と漁父の生き方のメリット・デメリットをまとめ、共感した方に手紙を書く活動を通して、それぞれの思想に対する理解を深める。 <p>③ 言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典 B の言語活動例ウは「古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。」であり、単元の目標イを効果的に指導するために、言語活動例ウを具体化した。 ・対象となる生徒の中には、教師に指名されて、間違っただけを言ってしまうことに対する恐怖心が高い者も多い。そこで、グループ発表では書いたものを簡単に消すことができる A 2 サイズ (45×60 cm) のホワイトボードを使用し、意見を発表することに対する抵抗感を取り除くようにした。また、生徒がホワイトボードに書いた意見を積極的に取り上げて、授業を展開するように心掛けた。 ・単元の最後に、前時に学習した「愛蓮説」を取り上げ、道家と儒家の思想の違いを確認することによって、古典 B の言語活動例イ「同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。」を具体化し、理解を深める助けとした。 <p>④ 評価</p>		
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・意欲 ・態度	<p>① 屈原と漁父の思想を読み取り、交流して考えを深めようとしている。</p> <p>② 中国の古代思想に関心を持ち、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。</p>	<p>観察 (机間指導) (発言)</p> <p>点検 (ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で意見交換するように助言する。 ・自らの生き方と比較して、共感できる部分がないか確認するように助言する。

	読む能力	① それぞれの登場人物の主張を正確に理解している。 ② 登場人物の生き方についてさまざまな視点から考察している。	観察（机間指導） （発言） 点検（ワークシート）	・グループ内で意見交換するように助言する。
	知識・理解	① 基本的な句法・語法を的確に理解している。 ② 文体や修辞などの表現上の特色を理解している。	観察（発言） 点検（ワークシート）	・辞書や文法書で調べるよう助言する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「漁父」と「屈原」のどちらに共感するのかわを選ばせることで、身近な教員やクラスメイトの生き方が儒家や道家の思想に通じるところがあることに気づき、これらの思想を身近に感じさせることができた。 ・それぞれの登場人物に励ましの手紙を書くことで、それぞれの思想の特徴と自分がどの部分に共感しているのかが明確になり、より主体的に本文を読もうとする姿勢が養われた。 ・登場人物それぞれの生き方の「メリット・デメリット」という言葉を利益・不利益の意味のみで捉える生徒もいるため、「長所・短所」という言葉で発問する方が適切な場合もある。 			
アドバイス 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの段落において発言者に印をつけることで、常に「漁父」「屈原」のうちどちらの主張であるのかわを意識させながら読ませるようにした。 ・文章を書くことに苦手意識を持つ者も多いので、励ましの手紙を書くときには手紙の型を提示し、取り組みやすいようにした。 			
小中学校との 系統性	<p>（中学校）文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古文特有のリズムを味わいながら、古典の作品に触れること。〔第1学年〕</p> <p>（中学校）文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。 〔第3学年〕</p>			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	<ul style="list-style-type: none"> ○返読文字を理解する。 ○対句を理解する。 ○本文を書き下す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・返読文字を理解し、該当箇所を書き下し文を作成する。 【ア】 *留意点 ・返読文字の性質を理解する。 ・助詞、助動詞、置き字を確認する。 ・グループ学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・対句について理解し、文中から対句を抜き出す。 【ア】 *留意点 ・対句の三原則を理解する。 ・文中から対句を抜き出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・全文を書き下す。 【ア】 *留意点 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語法・句法を理解している。 【知】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内での交流を通して、疑問点を解決するように助言する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・返読文字を確認する。 ・時間の足りない生徒には宿題にする。 		
2	○訓読を味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞き、音律の整った美しさに気づく。 【ア】 *留意点 ・自身の書き下し文との違いを確認させる。 ・対句を確認する。 ・ペアになり、音読する。 	基本的な語法・句法を理解している。【知】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	周囲との意見交流を通して疑問点を整理させる。 ↓ 整理した疑問点を確認させる。
	○一段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一段落を口語訳し、屈原の様子について確認する。 【イ】 *留意点 ・「斯」の解釈を確認する。 ・句法を確認する。 ・「与」が疑問形であることを確認する。 ・「屈原」と「楚」の関係について説明する。 	屈原の状況を理解している。【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	
	○二段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・二段落を口語訳し、屈原の発言の内容を確認する。 【イ】 *留意点 ・発言者を確認する。 ・「濁」と「酔」が世の人々のどのような様子を例えているのか理解する。 ・句法を確認する。 ・「見」が受身形であることを確認する。 	屈原の主張を理解している。【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	
	○三段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・三段落を口語訳し、漁父の発言の内容を確認する。 *留意点 ・発言者を確認する。 ・漁父が「澗其泥」「舖其槽」を勧めた理由をそれぞれ確認する。 ・句法を確認する。 ・「与」が従属の意であることを確認する。 	漁父の主張を理解している。【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	
3 (本時)	○第四段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・四段落を口語訳し、屈原の発言の内容を確認する。 【イ】 *留意点 ・発言者を確認する。 ・屈原が選んだ生き方を理解する。 ・句法を確認する。 	屈原の主張を通して、その生き方を理解している。【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	グループ内での意見交流を通して、考えを深めるように助言する。
	○第五段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・五段落を口語訳し、漁父の行動と発言の内容を確認する。 【イ】 *留意点 ・発言者を確認する。 ・漁父が「莞爾」した理由を確認する。 ・滄浪歌にこめられた漁父の生き方を理解する。 ・句法を確認する。 	漁父の歌と行動を通して、漁父の生き方を理解している。【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	
	○本文の内容をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「屈原」と「漁父」の生き方をまとめ、比較して違いを理解する。 【イ、ウ】 *留意点 ・グループ学習を行う。 	漁父と屈原の生き方の違いを理解している。【読】 ↓ 発問	グループ内での交流を通して意見を整理させる。 ↓ 整理した意見を確

		・それぞれの生き方のメリットとデメリットをまとめる。 ・共感できるのはどちらかを確認する。	観察（ワークシート） 机間指導	認させる。
4	○作品の主題を考え、全体を通して読んで感想をまとめる。	・「屈原」と「漁父」のうち、共感できる生き方を選び、その理由を明らかにする。 【イ、ウ】 *留意点 ・共感した登場人物にはげましの手紙を書く。 ・道家・儒家思想の理解を深めるために、前時に学習した「愛蓮説」の内容を確認する。	「屈原」「漁父」の生き方を身近なものとして感じている。 【読】 ↓ 発問 観察（ワークシート） 机間指導	グループ内での交流を通して意見を整理させる。 ↓ 他者の意見も参考にしながら、まとめるように助言する。

6 第3時の学習指導案

本時の位置	3時間目（全 4 時間）		
本時の学習目標	ア 屈原と漁父の考えを理解できる。（読む能力） イ 基本的な句法・語法を理解できる。（知識・理解） ウ 登場人物の考えを身近なものとして感じ、さまざまな視点から批評しようとしている。（興味・関心・態度）		
事前の準備	①ワークシート、ホワイトボードを準備する。 ②グループ分けをして、話し合いに参加しやすい雰囲気を作っておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□前時までの復習と本時の課題を確認する。	①本文プリントを訓読することによって、前時までの本文の内容を確認する。	・前時までのあらすじを確認する。 ・屈原と漁父の思想を理解することが本時の目標であることを説明し、板書する。
展開 30分	□屈原の生き方を理解する。 「安能以身之察察、～世俗之塵埃乎。」から「屈原」の生き方をまとめよう。	②第四段落を訓読する。 ③反語形「安」選択形「寧」の読みと意味を確認する。 ④「察察、皓皓」が潔白、「汶汶、塵埃」が汚れた様子を表すことを確認する。 ⑤口語訳して、屈原の生き方を簡潔にまとめる。	・発言者を確認させる。 ・「沐」「彈」の意味を確認させる。 ・対句を確認させる。 目標アに対する評価規準と評価方法 [規準] 汚れた周囲に合わせるなどできないという屈原の生き方を簡潔にまとめることができる。 [方法] 観察（指名・発言）、点検（ワークシート） [状況Cの生徒への手だて] ・「察察、皓皓」と「汶汶、塵埃」の意味を確認するように助言する。 ・周囲と意見交換するように助言する。

			<p>目標イに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 反語形「安」、選択形「寧」を正確に口語訳することができる。 〔方法〕 観察（指名、発言）、点検（ワークシート）</p> <p>〔状況Cの生徒への手だて〕 ・学習プリントを確認するように助言する。 ・周囲と意見交換するように助言する。</p>
	<p>□漁父の生き方を理解する。</p> <p>「滄浪歌」から分かる「漁父」の生き方をまとめよう。</p>	<p>⑥第五段落を訓読する。</p> <p>⑦漁父が「莞爾」した理由を確認する。</p> <p>⑧対句を確認する。</p> <p>⑨「滄浪水」「纓」「足」が象徴するものを確認する。</p>	<p>目標アに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 臨機応変に対応し、周囲との調和を大切にするという漁父の生き方を簡潔にまとめることができる。 〔方法〕 観察（指名、発言）、点検（ワークシート）</p> <p>〔状況Cの生徒への手だて〕 ・漁父が「莞爾」した理由を確認するように助言する。 ・「纓」「足」が象徴しているものを確認するように助言する。 ・周囲と意見交換するように助言する。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 部分否定「不復」を正確に口語訳することができる。 〔方法〕 観察（指名・発言）、点検（ワークシート）</p> <p>〔状況Cの生徒への手だて〕 ・学習プリントを確認するように助言する。 ・周囲と意見交換するように助言する。</p>
まとめ 15分	<p>□屈原と漁父の生き方の違いを理解しまとめる。</p> <p>屈原と漁父のような生き方にはそれぞれどのようなメリット・デメリットがあるのかまとめてみよう。</p>	<p>⑩屈原と漁父の生き方の長所・短所をまとめる。</p> <p>⑪ホワイトボードを使い、グループの意見を紹介する。</p> <p>⑫中国古代思想が持つ面白さや魅力に気付く。</p>	<p>・4～5人一組のグループになるよう指示する。 ・ホワイトボード（ワークシート）を配布する。</p> <p>目標アに対する評価規準と評価方法 〔規準〕 屈原と漁父の生き方をさまざまな視点で比較し、それぞれの長所・短所を理解できる。 〔方法〕 観察（指名・発言）、点検（ワークシート）</p> <p>〔状況Cの生徒への手だて〕 ・グループ内で意見交換するように助言する。</p>

		<p>⑬次時の課題が共感した人物への励ましの手紙を書くことであることを伝え、共感した人物を考える。</p>	<p>目標ウに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 屈原と漁父の思想を身近なものとして捉え、意見を交流しようとしている。</p> <p>[方法] 観察（発言）、点検（ワークシート）</p> <p>[状況Cの生徒への手だて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と他人の意見を比較してみるように助言する。 ・自分と異なった意見でも、共感できるものがあれば書き留めるように助言する。
--	--	---	---